



「3.11以降の地域の未来」勉強会

- 福島復興政策から考える地域の自立と価値の創造 -

2017年11月29日(水) 14:00～17:15

わたしたちが暮らす地域の課題は、どこから生まれ、
未来の可能性の芽はどこに見出せるのでしょうか？

少子高齢化と東京への一極集中が全国共通の課題として加速するなか、地域志向・地域課題解決志向の醸成を担う宇都宮大学地域連携教育研究センター COC/COC+推進室では、「地域の課題と、その背景にあるさまざまな構造」を読み解く勉強会を企画しました。福島原発事故の問題に一貫して取り組んでこられた二人の講師を招き、お隣の県である福島の復興と地方創生策の功罪についてお話を伺い、「地域の自立と価値の創造」について考える機会を設けたいと思います。どうぞお気軽にご参加ください。

■講師



山下 祐介氏 Yamashita Yusuke
首都大学東京准教授
(都市社会学地域社会学農村社会学環境社会学)

主著に『限界集落の真実 過疎の村は消えるか』『東北発の震災論 周辺から広域システムを考える』『地方消滅の罠 「増田レポート」と人口減少社会の正体』など。



市村 高志氏 Ichimura Takashi
NPO 法人とみおか子どもネットワーク理事長

震災と原発事故により福島県富岡町から都内に避難、法政大学大学院 公共政策研究科修士課程に在学中。共著に『人間なき復興 原発避難と国民の「不理解」をめぐって』『原発避難白書』など。

★おふたりのプロフィール詳細は裏面に記載

■会場／宇都宮大学峰キャンパス
UUプラザ2階コミュニティフロア
(栃木県宇都宮市峰町350)

■タイムスケジュール／
・13:30 / 開場
①14:00～16:00 / 講演会
②16:15～17:15 / 意見交換会
③18:00～19:30 / 懇親会

- ・講演会と意見交換会…無料。
→事前予約なしでご参加いただけます。
- ・懇親会…参加費 一般2,000円 / 学生1,000円。
→事前申し込みをお願いします(締め切り11/27)。

●お問い合わせ及び懇親会申し込み先

✉cocplus@cc.utsunomiya-u.ac.jp

☎028-649-5141 (担当/ミノダ)



講師のご紹介

■山下 祐介 | やました ゆうすけ

首都大学東京准教授（都市社会学・地域社会学・農村社会学・環境社会学）。1969年生まれ。九州大学助手、弘前大学准教授を経て、2011年より現職。過疎高齢化、災害、環境問題などに取り組む。

著書に、『限界集落の真実 過疎の村は消えるか』（ちくま新書・生協総研研究賞）、『東北発の震災論 周辺から広域システムを考える』（ちくま新書）、『地方消滅の罅 「増田レポート」と人口減少社会の正体』（ちくま新書）、『復興が奪う地域の未来』（岩波書店）、『リスク・コミュニティ論 環境社会史序説』（弘文堂）、編著・共編著に『白神学』第1巻～第3巻（ブナの里白神公社）、『津軽、近代化のダイナミズム』（御茶の水書房）、『「原発避難」論 避難の実像からセカンドタウン、故郷再生まで』（明石書店・地域社会学会特別賞）、共著に『人間なき復興 原発避難と国民の「不理解」をめぐって』（ちくま文庫）、『地方創生の罅』（ちくま新書）などがある。

『津軽学』（最新は第11号、津軽に学ぶ会）の活動にも参加。

■市村 高志 | いちむら たかし

NP0法人とみお子どもネットワーク理事長。法政大学大学院公共政策研究科修士課程1年に在籍中。1970年生まれ。横浜市出身。20代で福島県富岡町に移住。震災により東京都に避難中である。

震災前は自営業を生業としており、両親と妻、子供3人で暮らしていた。富岡町では地域活動として富岡町商工会青年部や、さくらYOSAKOI実行委員会、富岡第二小学校PTA会長を歴任。震災後は、当事者支援団体を設立し、全国に避難をしている富岡町民との対話の場づくりを行ってきた。

共著に『人間なき復興 原発避難と国民の「不理解」をめぐって』（ちくま文庫）、『ゴーストタウンから死者はでない』（小熊英二編、人文書院）、『原発避難白書』（人文書院）など。学術研究では、社会学や行政学、法学などの専門家と研究会を実施しており、日本学術会議では社会学委員会の提言作成に協力。富岡町第二次復興計画検討委員、生活支援部会長（2014年8月～2015年5月）、富岡町復興シンボル検討委員（2015年10月～2016年3月）なども務める。



共催団体のご紹介

■宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センター 福島原発震災に関する研究フォーラム

多文化公共圏センターのプロジェクトの一つであった、福島乳幼児・妊産婦支援プロジェクト（FSP：2011～14年度）を2015年に改組して発足。

フォーラムのメンバーは、2011年3月の東日本大震災以降に実施してきた福島原発震災の被災者支援・調査活動をもととして、福島原発震災が社会にどのような影響を及ぼしたかを構造的な視座から捉え記録し、社会に広く公表・発信していくことをめざしている。また、原発震災による被災者の困難は長期化していることをふまえ、現実の政策課題の提言につながるような研究を志向している。